

図書館サブシステム 福島正徳

1 はじめに

今回導入した図書館サブシステムは、以下の構成となっています。

図書館サブシステム

- └ 電子図書館システム
 - ├ 機関リポジトリシステム
 - └ 電子図書館システム（とんぼの眼）
- └ 図書館情報システム
 - ├ 図書館業務システム
 - └ 図書館 Web サービスシステム

電子図書館システムは前回のリプレース時には「とんぼの眼」のみ存在していましたが、その後個別に導入した機関リポジトリシステムもリプレース対象とし、両システム間の重複コンテンツの整理やシステム連携度を高めることをリプレースの主たる目的としました。

図書館情報システムは Web サービスの充実を最大の目標とし、蔵書検索システムと図書館ポータル（My Library）を連携させたかたちでの「読書・読書奨励コミュニティの創設」をコンセプトとしました。業務システム部分については統合認証システム連携及び財務会計システム連携の高度化を大きな目標としました。

以下、各システムのトピックについて紹介します。

2 電子図書館システム

2.1 機関リポジトリシステム

機関リポジトリシステムは、大学の研究教育の成果を収集・蓄積し無償で学内外に公開することを目的として平成 20 年 3 月に正式公開した買い取りのシステムでした。

構築・公開の経緯から「とんぼの眼」との間に生じていた紀要論文や博士論文コンテンツの重複を整理するため、「とんぼの眼」側のコンテンツを削除・移行し、コンテンツは機関リポジトリの

みの登載としました。

トップページには新着コンテンツと共にアクセスランキングや本文ダウンロードランキングを表示するようにし、研究成果に対するユーザーの関心度を明示させました。

主要コンテンツの紀要論文はトップページから **紀要名称 → 巻号一覧 → 巻号内コンテンツ一覧** という階層表示を行い、発行単位でコンテンツを表示できるようになりました。また、紀要の巻号一覧の Web ページを固定 URL とすることにより、部局の公式ホームページ等から機関リポジトリにリンクを張ることで紀要に掲載された研究成果一覧を容易に作成することができるようになりました。



【機関リポジトリシステム：トップページ】

2.2 電子図書館システム（とんぼの眼）

電子図書館システム [とんぼの眼] は、紀要論文、博士論文といった学内の学術生産物等を収載し、図書館蔵書も含めた横断検索が可能なシステムとしてスタートし、その後教員基礎情報データベース、研究業績データベースも包含するシステムに拡張しましたが、今回のリプレースでコンテンツの整理を行い、植物遺伝資源データベース、教員基礎情報データベース、研究業績データベースを主要コンテンツとするシステムに縮小しました。

研究業績データベースでは、利用者向けに研究業績の検索インターフェースを一新して利用しやすいようにしました。教員向けには業績データの公開漏れを防止するため画面インターフェースの改良を行い、業績データの登録促進のため代行登録機能も付加しました。また、登録した業績データを教員個人のホームページ等で一覧表示して有効活用できるようURLの生成方法を工夫しました。利用する場合のURL作成法は、「とんぼの眼」で案内しています。

さらに、機関リポジトリシステムとの連携機能により、登録された研究業績の一部は機関リポジトリシステムの基本メタデータや本文データとして提供され、図書館が行う機関リポジトリへのコンテンツ登録を手助けします。

3 図書館情報システム

3.1 図書館業務システム

図書館業務システムは図書館資料の受入から目録、資料の貸出返却、図書館間相互利用（ILL）サービスを運用するためのシステムです。

業務やサービスを行う上での基本データとなる教職員及び学生の利用者データは共通基盤サブシステムの統合認証システムと連携して利用者の新規登録、既存利用者の有効期限切れ等の管理を行っています。今回のリプレースで、教員の所属も統合認証システムと連携して管理できるようになりました。

教員の図書購入依頼やILL依頼のサービス時には財務会計システムの財源情報を図書館業務システムに再現する必要がありますが、今回、別途財務会計システムのカスタマイズを行い、財源の増分データ・減分データを中間ファイル経由で業務システムインポートしタイムリーに反映させることができるようになりました。Web図書購入依頼システムについても、業務システムに反映させたデータにより同様の反映を行えるようになりました。

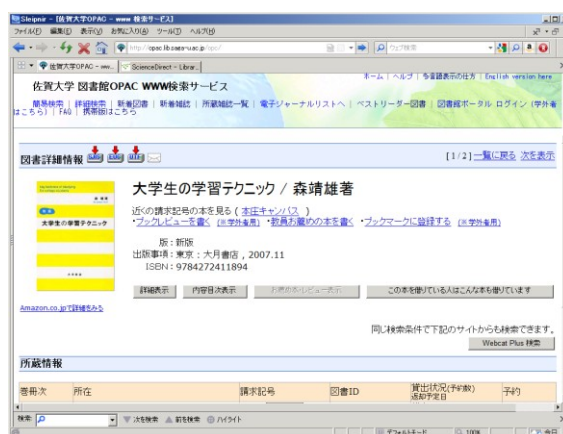
3.2 図書館Webサービス

図書館Webサービスシステムは、蔵書検索（OPAC）と図書館ポータルで構成され、図書館

サブシステムの今回のリプレースの目玉として、両者を連携させた「読書・読書奨励コミュニティ」を構築することを目指しました。

蔵書検索では、以下の資料案内機能、資料検索機能を付加し、読書のためのガイド・ナビゲーションを強化しました。

- (1) 図書詳細画面に、①図書内容・目次情報の表示、②貸出履歴を利用した貸出（読書）傾向の表示、③教職員お薦めの図書、ブックレビューの表示、④図書館配置資料のマップでの案内等



【蔵書検索：図書詳細画面】

- (2) 検索画面に、①図書館配置資料のみを対象とした検索機能、②教職員お薦めの図書、ブックレビュー有り図書、ベストリーダー図書を指定した検索機能等



【蔵書検索：簡易検索画面】

電子ジャーナルについては、Exlibris社のリンクリゾルバであるSFXを導入し、SFXサイトで契約ジャーナルだけでなく無料ジャーナルも検索・利用できるようになりました。ま

た、SFX 導入により CiNii、Academic Search Premier 等 OpenURL 対応の文献データベースの検索結果から電子ジャーナル利用等をナビゲーションする機能も付加されました。

図書館ポータルでは、認証部分にシボレス認証をベースとしたシングルサインオン機能を実装しました。この認証システムの実装は、本学が契約している電子ジャーナルや文献データベースについて、ベンダー側の対応が整えばキャンパス内からのみ利用可能だったサービスをキャンパス外からも同様なサービスを受けることを可能にします。今回のリプレイスに当たり、シングルサインオン認証を実装していただいた共通基盤システムの関係者にこの場を借りてお礼を申し上げます。なおシングルサインオン認証を利用した電子ジャーナルや文献データベースの利用については、別の機会に紹介させていただきます。

図書館ポータルの機能としては、以下のサービスを実装して個人向けサービスを強化しました。

- (1) ホーム画面に、①カレンダー形式で休館日、貸出資料の返却期限、グループ学習室予約日等の表示、②利用者種別・所属館等、利用者グループごとに必要なお知らせのみ表示 等
- (2) サービスメニューに、①貸出履歴管理、②各図書に利用者の貸出（読書）傾向ランキング、③読書プラン作成、④教職員お薦めの図書・ブックレビュー登録 等



【図書館ポータル：ホーム画面】

また、図書館ポータルは大学関係者だけでなく、一般市民の方にも機能制限付きで開放し、貸出履

歴管理やブックレビュー登録等のサービスを提供しています。

さらに、図書館 Web サービスシステムは教務側システムとの連携も果たし、①教務ポータルのホーム画面に図書館からのお知らせ表示、②教務システムでのシラバス作成時の図書館 OPAC 参照、利用時の所蔵確認機能を実装しました。

4 おわりに

電子図書館システムでは、「とんぼの眼」との統合廃合等による機関リポジトリシステムのリニューアルを果たし、利用者にとって利用しやすい、利用価値のあるシステムにすることができたと思っています。これを機に、学内の研究成果コンテンツの収集に力を入れてシステムを充実させていきたいと考えています。

図書館情報システムでは「読書・読書奨励コミュニティの創設」をコンセプトとした Web サービスの充実を図りましたが、期せずして平成 21 年度の大学の認証評価で「図書館の貸出冊数が少ない」との指摘を受けたことへの対応策としての役割も担うことにもなりました。細かい点では微調整が必要な点も残っていますが、学内の利用者の協力を得てコンテンツを充実し、コミュニティを通して利用者、特に学生の読書意欲に刺激を与えることのできるシステムに育てていきたいと考えています。